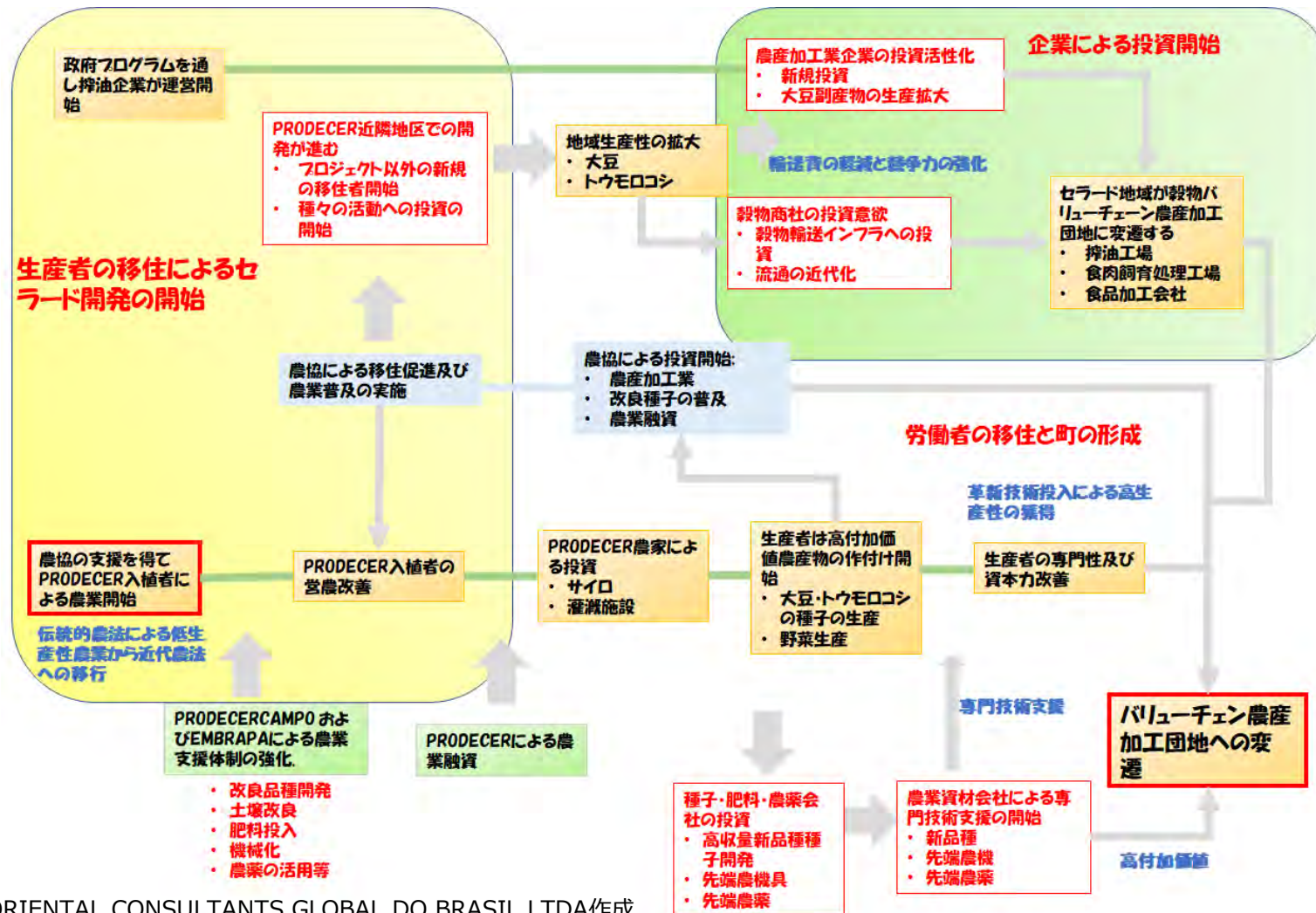


ブラジル大豆産業の成長の構図

- ブラジルの大豆産業は多様なプレイヤーとの関わりの中で成長してきた。その構図を以下に示す



(出所) ORIENTAL CONSULTANTS GLOBAL DO BRASIL LTDA作成

第1ステージ「栽培技術の構築および促進策策定時期」 その1

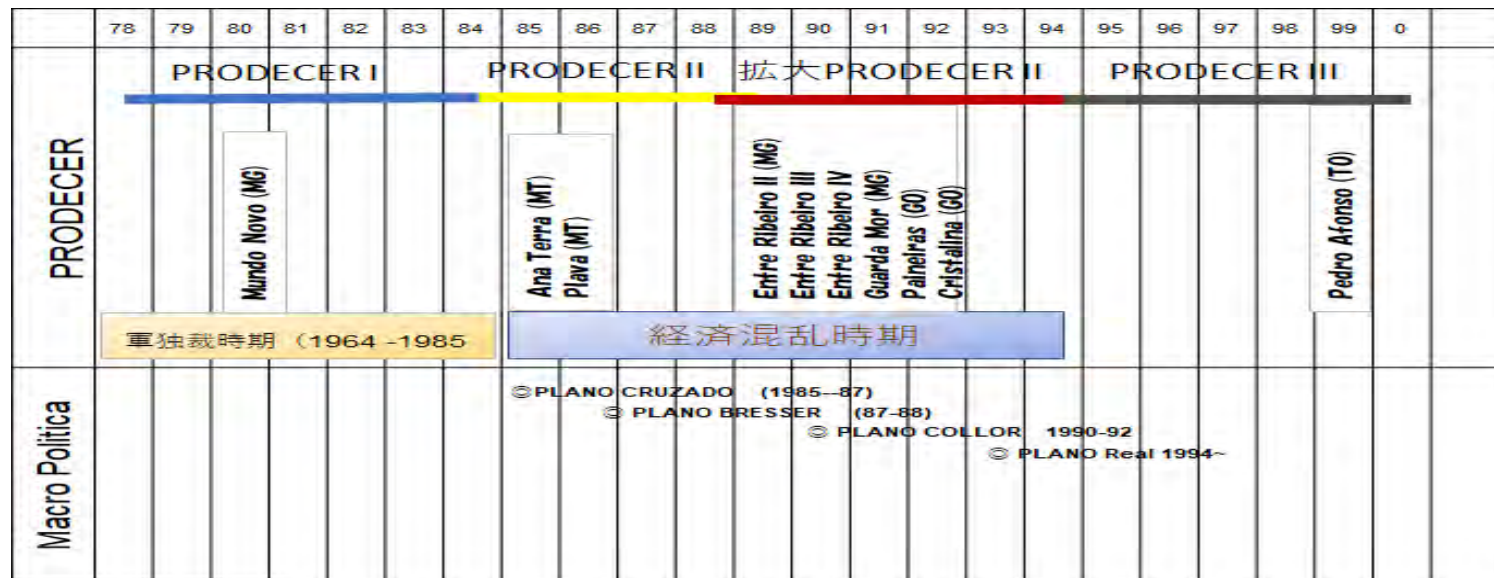
1980年代～1994年；ポロセントロ、PRODECER等の開発計画と、試験機関EMBRAPA等の強化

- 第1ステージにセラード地域における穀物栽培の基礎が出来上がった
- 1970年代に農業研究のベースとしてEMBRAPA（ブラジル農牧研究公社）が創設され、米・肉牛・小麦およびゴムの実験農場が設置
- 1975年にセラード開発として「POLOCENTRO計画」が批准され、本計画に基づいて多くの投資プログラムが実施されるようになった
- 大豆は、当初1980年代までブラジル南部地域のみで作られ、セラード地域では栽培が困難と考えられていたが、EMBRAPAの努力でセラード地域に適した種子の研究が進み、作付けられるようになった
- 同時に、日本ブラジル間の覚書が「1976エルネストガイゼル/田中角栄覚書」として交わされた。まず、セラード開発の最初のプロジェクトとして、当時の日系農業組合であったコチア産業組合によりサンゴタルドへの農業移住が開始され、その後、日本政府の協力により、日伯セラード農業開発協力事業（PRODECER事業）としてセラード各地における栽培試験が開始。セラードにおける穀物栽培の基礎が構築された
- この時期に発表された種々の支援策は以下の通りである。これまでの主な支援策として以下があげられる。
 - ① 鶏肉生産促進（1960年代）
 - ② EMBRAPAの強化および技術支援体制の強化（1970年代）
 - ③ POLOCENTROの発足（Decretonº 75320 de 29/01/1975 / PE - Poder Executivo Federal (D.O.U. 30/01/1975)）
 - ④ PRODECER事業等の設立（1976 エルネストガイゼル/田中角栄覚書、1980～2000年）と計画の実行

第1ステージ「栽培技術の構築および促進策策定時期」その2

- 日本政府によるPRODECER計画は、1980年代初頭のMUNDO MOVO計画に始まり、その後10か所のプロジェクトが実施された。ただし、この開発計画が、ブラジルの経済混雑時期と重なったため、移住者は大量の債務を抱え込むこととなり、多くの移住者が離農せざるを得なかった
- しかしながら、その意思是、それに続く新規の移住者により引き継がれ、現在の大規模企業農家誕生のベースとなっている
- PRODECER計画の中では研究機関であるEMBRAPA強化も行われ、改良品種の導入、土壌改良、機械化および農具の使用と言った当時では革新的な技術が導入された
- 安定的な生産性獲得の技術が可能であるという事が一般的に知れ渡るようになり、新規の移住者が多くこのセラード地域に流入するようになった経緯がある。

PRODECER計画のステップ



(出所) ORIENTAL CONSULTANTS GLOBAL DO BRASIL LTDA作成

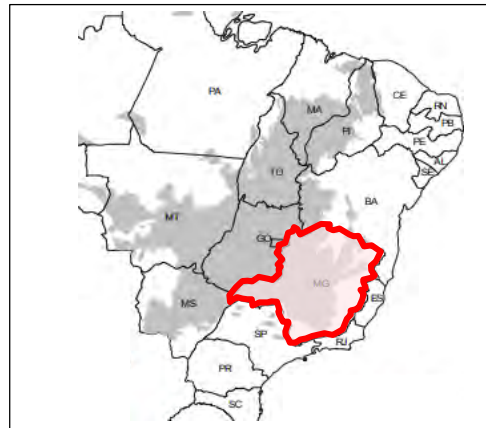
（参考）JICAの支援プロジェクト

- JICAが、1979年～2001年に日伯セラード農業開発関連事業を支援。その他ブラジルのインフラ開発についても円借款事業として支援を実施

日伯セラード農業開発関連事業の経緯

第1フェーズ

1979年～1983年 試験的事業



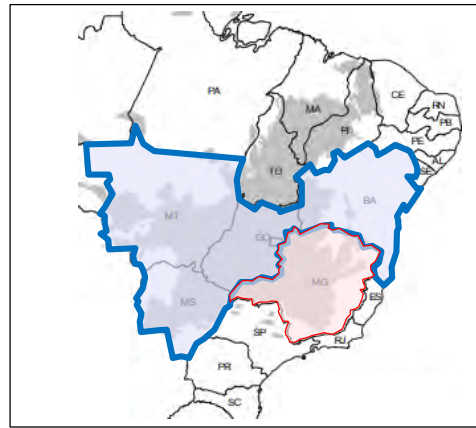
パラナ川
浚渫船購入事業
1981年12月7日（借款契約日）

プライア・モーレ港建設事業
1981年12月7日（借款契約日）

ピラ・ド・コンデ港建設事業
1981年12月7日（借款契約日）

第2フェーズ

1985年～1990年 新規試験的事業
1985年～1993年 第一段階事業の本格事業化



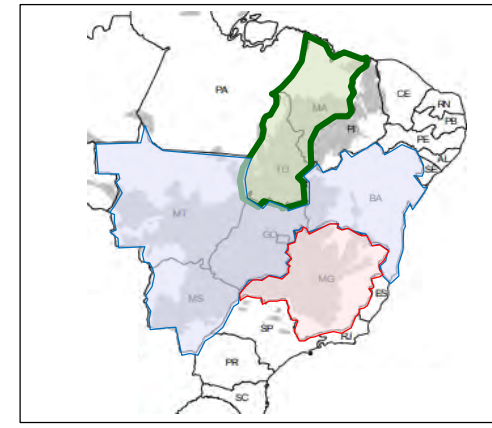
サントス港整備事業
1991年9月5日（借款契約日）

ジャイバ灌漑事業（II）
1991年9月5日（借款契約日）

東北伯灌漑事業
1991年9月5日（借款契約日）

第3フェーズ

1995～2001年 試験的事業



チエティ川、カブス・デ・シマ川
流域環境改善事業
1995年7月18日（借款契約日）

セラード地帯総面積2億ha
開発耕地面積1450万ha
（日本総面積の40%相当）



（出所）外務省「日伯セラード農業開発関連事業の実績」、JICAウェブサイトよりみずほリサーチ&テクノロジーズ作成

第2ステージ「供給先多様化時期」

KANDIR政策による1994年の強化

- ブラジルは、セラード開発が始まった当初は大豆・トウモロコシの輸入国であった
- PRODECER計画の対象地域での大豆生産によって、輸入代替農産品とすることが可能であったが、安定的生産のためには、国内も含めた供給先の確保が必要であるとの認識のもと、以下の方策を取ることで、搾油企業投資の活性化を図った
 - ① 搾油企業設置促進（1970年代から）
 - ② 外国資本投資活性化策（1990年代後半）
- この方策により、各地に搾油工場が設置され、安定的供給先の確保が図れるようになった